

議会だより **せら**



**道の駅世羅
オープン1周年**

■今号の主な記事

- 世羅町国民健康保険税条例等の
一部改正可決…… 2～3
- 議会報告会・意見交換会 …… 7
- ありゃあどうなったかの～ 道の駅世羅 …… 9
- ズバリ **町政の課題** 13議員29問を質す … 10～23
- 元気な人紹介 …… 24

No.46 平成28年7月15日発行
メールアドレス gikai@town.sera.hiroshima.jp

発行／広島県世羅町議会 編集／議会広報広聴調査特別委員会

条例等の一部改正を可決

第2回定例会は6月8日から20日まで開会した。一般質問では、13人全員が29項目にわたり施政を質した。

議案11件、報告3件、承認6件を審議した。

国民健康保険税の税率等の変更及び地方税法施行令の一部が改正されたことに伴い、世羅町国民健康保険税条例の一部を改正した。
主な改正点は、次のとおりである。

国民健康保険税の税率等変更関係

- ・国民健康保険税率の平均引き上げ率
(1人当たり) 4.9%
- ・平均年間税額
8万1937円
(約3800円増額)

地方税法施行令関係

- ・国民健康保険税課税限度額
医療分「52万円」を「54万円」に
後期高齢者支援分「17万円」を
「19万円」にそれぞれ引き上げた。
- ・軽減判定所得算定加算額
5割軽減「26万円」を「26万5千円」
に2割軽減「47万円」を「48万円」
にそれぞれ引き上げた。

第2回定例会

世羅町国民健康保険税

町内すべての
小中学校に
ICT機器を
整備

平成26年度から3年計画で行う町内各小中学校へのICT機器の整備について、今定例会で物品購入契約の締結を可決したことから、町内すべての小中学校にICT機器が配備される。今後は、町内の各小中学校ではICT機器を活用して、学習を深めていくことになる。

今回までに整備されたICT機器の内容は、つぎのとおりである。

【小学校】

・共通

電子黒板

学習支援システム

・学校別

タブレット

せらひがし

甲山

世羅

せらにし

25台
27台
35台
23台

【中学校】

・共通

電子黒板

学習支援システム

・学校別

タブレット

甲山

世羅

世羅西

33台
40台
30台

※平成28年7月現在の保有数

報告します 委員会は 今

お試し暮らしを体験したい方へお勧め！

総務文教常任委員会

現地調査

（移住体験事業）

方面から三次方面に向かい、ふれあいロードを過ぎ、すぐ左側。

（住宅）

木造カラーベスト葺平屋建1DK（42㎡）
駐車場、野菜畑あり。

○世羅暮らしの家【安田体験住宅】

（場所）
国道184号を世羅



世羅暮らしの家【安田体験住宅】

事務調査

※希望する方をご存知の方は、企画課へお知らせください。

○定住施策に関する事務の進捗状況

（業務内容）

- ・移住情報発信事業
- ・構成原案を検討中。
- ・移住体験事業
- ・業者と賃貸借契約を締結（1組利用済）。
- ・移住者ネットワーク協議会事業
- ・設立準備会を開催し設立に向けて協議中。
- ・移住者住宅支援事業
- ・中古住宅購入・リフォーム支援を2件認定。
- ・移住総合窓口設置事業
- ・定住支援員を配置し移住者と地域とのマッチ

チングを実施。

（今後の予定）

各業務とも、よりわかりやすく、より利用しやすいように改善し、多くの方に世羅町に関心をもち、各事業を利用してもらい、定住者の増加を図る。

○防災計画の現状

（防災マップ）

県による危険箇所調査が継続のため、現時点では更新できない。

今後、調査の状況をみて決定する予定。

（緊急時防災用品）

防災センターにブルーシート、飲料水など28品目を備蓄中。ただし、熊本地震の際、緊急物品として7品目を提供しているの

で至急補充予定。今後、食糧品などは5年更新サイクルで整備予定（防災訓練の際、試食用として提供）。

○学校施設整備管理業務
（管理業務内容）

従来、各小中学校で教頭はじめ教職員が行っていた校舎周辺の環境整備、簡易な施設整備などをシルバー人材センターに委託することで、本来の業務に専念する。

（今後の予定）

各校の年間計画に基づき、委託すべき実施時期、必要な作業を決定し順次実施する。

○高齢者の安否確認等
（確認方法（情報提供者））

- ・地域見守り活動
- ・民生委員小地域福祉ネットワーク
- ・訪問給食サービス
- ・ふれあい安心電話サービス
- ・避難行動要支援者避難支援

（今後の課題）

各情報提供者からの情報を収集し、速やかに関係機関へ連絡する対応策を福祉課が中心になって取りまとめる必要がある。



現地調査【町道小草縦ノ木線】

農業分野における連携に取り組もう

産業建設常任委員会

現地調査

①町道

・大田道線
西川本線との交差点
までの現道拡幅を予定
し、今年度より地元関
係者への説明後測量、
河川協議を行う。

・西川本線

改良中箇所舗装予
定、国道184号への
接続箇所の用地買収と
橋梁架け換えを進める。

・小草縦ノ木線

昭和池から県道甲山
甲奴上市線までのうち
延長約800mを今年
度改良予定。

②下水道事業

平成28年度は、広
瀬、出口、今市地区を
予定。
併せ、加入促進に努

める。

③「道の駅世羅」の状況

1年が経過し毎週末
イベントを実施。バス
での来場者に弁当積み
込みサービスを検討
中。又町内の産直市場
への案内、入荷状況を
タブレットで案内し好
評である。

所管事務調査

①平成27年度入札発注 の契約及び進捗状況 (250万円以上)の 説明を受けた。

建設課5事業、産業
振興課の1事業の6事
業、4事業は完了。

②町道維持管理

町民による草刈りな
どの作業中の事故によ
る補償は、国・県道は
アダプト制度、町道は
普通傷害保険と賠償責
任保険で対応(但し、
3名以上の団体で事前
申請)

③有害鳥獣対策と今後の 対応

バッファゾーン整備
が効果的であるため里
山林整備事業を推進し
ていく。広域連携しG
PSを利用した県単位
の捕獲やジビエについ
ての説明を受けた。

④今年度の農業政策に ついて

農地中間管理事業に
よる農地集積状況等
は、県全体では平成26
年度より約3倍に伸
び、町でも認定農業者
に対する集積が伸びて
いる。新規就農事業は
今年度12人を目標とし

ている。

⑤農業分野における農 商工連携の取り組み

平成29年2月に「6
次産業化戦略」を策定
し、6次産業と農業の
収益を高める仕組みづ
くりを構築する。「作っ
たものを売る」のでな
く「売れるものを作り
出す」という発想の転
換を図る。
戦略は人材不足や商
品開発、農商工連携の
課題を明確にし、特色
を活かし農業・6次産
業の一体的な発展によ
り地方創生を推進する。



現地調査【下水道事業：出口地区】

議場への録音機器の持ち込みは

議会改革調査特別委員会

「世羅町議会における議会傍聴に関する要望」が提出されたため、議場等に録音機器を持ち込むことについて調査した。

傍聴の際、録音機器を持ち込むことについては、県内9町議会すべてが傍聴規則により制限している。また、近隣市でも同様の規定により制限している。

制限する理由としては、文献によると「録音等を認めるとその部分だけで全体が類推されることや、発言の取り消し・訂正が予測されることもあり、正確性に欠けるおそれがあるため。」となっている。

以上の状況を踏まえ、委員全員で自由討論した結果、「録音機

器の持ち込みは認められない。」という結論に達した。

しかし、本年4月「障害者差別解消法」が施行され、行政としては、「合理的配慮の提供」が義務として規定されたことから、今回の要望も含め、議会運営に関する障害のある人への配慮については、今後、引き続き調査研究していく課題とした。

議会報告会・意見交換会の意見などの取りまとめ

町内13か所で開催した議会報告会・意見交換会での意見などを集約して意見書を作成し、町執行部に送付するとともに、回答が必要なのは各自自治セン

ターを通じてお返しする。

また、各会場での主な意見や課題は、本号に掲載した。

人権研修の実施

今回は、4月に施行された「障害者差別解消法」をテーマとし、広島県が取り組んでいる「あいサポート運動」の出前講座を利用して実施した。

「障害を知り、共に生きる」という研修テーマに沿って

- ①あいサポート運動
- ②障害がある・ない
- ③いろいろな障害、その支援
- ④障害者差別解消法の項目について、講師の講話、DVD視聴などで説明があり、今後も継続して「合理的配慮」

について自ら考え、できることから前進する必要性を痛感した。



障害を知り、共に生きる



まず、知ることからはじめよう



あいサポート運動・あいサポーターについて

～まず、知ることからはじめよう～

様々な障害の特性や障害のある方が困っていること、そしてそれぞれに必要な配慮を理解し、日常生活でちょっとした配慮を実践していく「あいサポーター」の活動を通じて、誰もが暮らしやすい地域社会（共生社会）をみなさんと一緒につくっていく運動です。

誰でもあいサポーターになることができます。次のいずれかの方法で、この「障害の特性や必要な配慮などをまとめたパンフレット」を受け取ります。

- ①研修会、講演会、イベントなどであいサポート運動の説明を受ける。
- ②地域の集まりなどへの出前講座（県が講師を派遣します）に参加し、あいサポート運動に関する説明などを受ける。

あいサポーターは、「サポーター宣言」にのっとり、活動していただきます。

あいサポート運動は、平成21年11月鳥取県で、平成23年4月鳥取県で、平成23年10月広島県でスタートし、連携して取り組んでいます。多くのみなさんの賛同を得て、あいサポーターの輪が広がっています。

※ このパンフレットに載っていることをすべて完璧にされる必要はありません。一人ひとりが自分できると思うことが少しずつ始めていただくことが大切です。

平成28年度 議会報告会・意見交換会

開催日	開催場所	主 な 意 見 や 課 題 な ど	参加者数		
			男	女	計
5月20日	大見自治センター	●自治センターの施設改善の要望に対する予算化は。 ●道路パトロールの結果と反映はどのようにしているか。 ●有害鳥獣の狩猟期間を年中駆除期間としては。	11	1	12
	せら文化センター	●空き家対策制度を住民が知らない。 ●議員・行政が住民の実態を知ることが必要。 ●高齢者福祉臨時給付金について周知徹底を。	10	2	12
5月23日	せらにしタウンセンター	●報告会は、地元以外の議員も広範囲に出席してほしい。 ●高齢者ばかりでなく、若い人、子どもの居場所がないが対策を。 ●町道の草刈りは現実には人がいない。	9	2	11
	津久志自治センター	●空き家対策をどうするのか、行政は契約から家賃まで詳細に何をするのか。 ●合併特例債13億円の内容は。 ●飼料米の基準反収、調査場所の見直しを。	15	2	17
	西大田自治センター	●「空き家」ホームページは写真だけでなく、詳細説明の情報発信が欲しい。 ●地籍調査の山林部の確定を早急に。 ●若い世代が議員として生活できるための報酬の改革を。	20	4	24
5月24日	黒川自治センター	●地域おこし協力隊、地域ブランドは同一のものか。 ●移住して2年経過した、当時の役場の担当が親切だった。 ●町道の草刈り制度、条件、保険、人身・物損はどうか。	10	2	12
	山福田自治センター	●空き家対策の前に定住対策ではないか。 ●一般質問で提案型が少ない、批判ばかりではいけない。一考を。 ●当地区は限界集落でなく、消滅集落になりそうだ。	16	1	17
	津名自治センター	●「空き家」への補助政策は。 ●「買い物弱者」に施策、支援の充実を望む。 ●周辺部は学校、保育所がなくなり過疎が進んでいる現状、施策拡充を。	6	2	8
5月26日	中央自治センター	●消防団員定数減の根拠は。 ●空き家の実態調査・分析をすべき。 ●はんぶんこプランとはどのようなものか。	14	3	17
	伊尾自治センター	●「ICT誘致事業」はどんなことか。 ●議会は賛成ばかりで反対意見が少ない。議員の質問は提案型を。 ●「道の駅世羅」のモニタリングは今後検証すべきである。	11	2	13
	宇津戸自治センター	●「世羅高教育環境支援事業」の内容は。 ●臭気問題に関し設備がある限り臭気ゼロにはならないのでは。 ●デジタル防災行政無線の設置はなぜ。	11	2	13
5月27日	甲山自治センター	●「福祉まつり」の送迎バス予算が計上されていないが一考を。 ●上の橋は町道認定要件もあるが、補修を。 ●請願・陳情の追跡調査を。個人でもできるのか。	14	0	14
	東自治センター	●女性の働く場所としての「せらの宿ひがし」を地元の雇用の確保の場に。 ●空き家の貸し出しは仏壇、家財の処分などで難しい。 ●移住者との対話交流の場が少ないのでなじめない。	4	2	6
合 計			151	25	176

(単位：人)

提出議案等の採決結果

第2回世羅町議会定例会（平成28年6月）

（賛否の分かれたもの）

議案番号	提 出 議 案	採決	田谷	盛谷	岡田	米重	仲行	矢山	福田義	福田豪	下原	新原	生田	徳光	仙光
承認第4号	専決処分の承認を求めること	承認	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○
議案第41号	町道路線の認定	可決	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○
議案第42号	国民健康保険税条例の一部を改正する条例	可決	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○
議案第43号	家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例	可決	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○
議案第47号	工事請負契約の締結	可決	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○

○：賛成 ●：反対

（全員一致で決定したもの）

議案番号	提 出 議 案	採決
報告第7号	平成27年度一般会計繰越明許費繰越計算書の報告	報告
報告第8号	平成27年度公共下水道事業会計予算繰越計算書の報告	報告
報告第9号	損害賠償に係る和解及び損害賠償の額の決定	報告
承認第3号	専決処分の承認を求めること	承認
承認第5号	専決処分の承認を求めること	承認
承認第6号	専決処分の承認を求めること	承認
承認第7号	専決処分の承認を求めること	承認
承認第8号	専決処分の承認を求めること	承認
議案第44号	平成28年度一般会計補正予算（第2号）	可決
議案第45号	平成28年度国民健康保険事業特別会計補正予算（第1号）	可決
議案第46号	平成28年度公共下水道事業会計補正予算（第1号）	可決
議案第48号	財産の取得	可決
議案第49号	財産の取得	可決
議案第50号	財産の取得	可決
議案第51号	平成28年度一般会計補正予算（第3号）	可決

ありゃあどうなったかの～

オープンから1年 道の駅世羅

道の駅世羅は平成27年5月23日、華々しくオープンしてから早いもので、1年が経過しました。

道の駅世羅は、他の道の駅とは異なり、町の特性を踏まえ町内を周遊する情報発信に重点を置いた設計で、農産物などの販売のアンテナショップとして開業したものです。

道の駅世羅の指定管理者である世羅町観光協会では、インフォメーションセンターにコンシェルジュを常駐させて町内の周遊を案内するほか、地元農業法人と連携した収穫イベント、他の道の駅とのコラボによる各地の産物の販売、コンサート、地元の郷土芸能の発表などあらゆる分野の催しものなどを行い、利用者の増加を図るとともに、魅力ある道の駅を目指して日々活躍しています。

道の駅世羅は、観光客に憩いの場を提供するとともに、町民の皆さんにも食事、買い物、憩いの場を提供するという一面もありますので、高校駅伝などのパブリックビューイングを開催するなどしています。

道の駅世羅がオープンする直前の平成27年3月22日、中国横断道尾道松江線が全線開通していたことにより、事前に予想していた利用者数は増加することが期待され、下記周遊効果のとおり、年間を通して、世羅町への入込観光客は、前年度に比べ64万人以上、増加率149.4パーセントと道の駅開業効果があったものと思われます。

一方、開業前に予想していた利用状況の計画と実績を比較すると、レジ通過人数、店舗等立寄者数、1日あたりの平均店舗等立寄者数の、いずれも予想を大きく上回っています。

道の駅世羅は開業して2年目に突入したが、これからも新たな発想で、観光客などに親しまれ、愛される道の駅となることを期待します。

周遊効果（平成27年観光客）

単位：人、千円

	町内	入込観光客数			総観光客数	観光消費額
		県内（町外）	県外	合計		
平成26年	244,872	776,412	519,057	1,295,469	1,540,341	1,974,241
平成27年	336,058	1,137,176	798,566	1,935,742	2,271,800	2,325,928
増加率（%）	137.2	146.5	153.8	149.4	147.5	117.8

利用状況

単位：人

	レジ通過人数	店舗等立寄者数	平均店舗等立寄者数／日
計画	217,111	620,318	1,700
実績	244,316	814,387	2,594
実績率	112.5 %	131.3 %	152.6 %

町政の課題

13議員29問を質す^{ただ}

ページ	質問者	質問事項
11	仲行 洋 議員	1. 次期への挑戦 — 意気込みは 2. 学校教育について
12	生田 智康 議員	1. 猪・鹿の処理対策は進化したのか 2. 安全・安心の町づくり 3. 本好き日本一の図書館を目指そう（貸出率）
13	田谷 幸奏 議員	1. 平成28年度新体制での事務処理状況の現状について 2. 町民の健康管理に対する行政としての支援策について 3. 災害に強いまちづくりについて
14	下原 嘉雄 議員	1. 世羅里山対策であるバイオマスタウン構想が制定されているが、施策の現状はどのように推移しているのか 2. 世羅町への定住促進のための、移住者に対するフォローアップ政策は
15	矢山 武 議員	1. 農業後継者の現状と希望の持てる農業は 2. 県道・町道の改良と維持管理への対策は 3. 国保の広域化と介護サービスの充実の取り組みは
16	米重 典子 議員	1. 世羅高等学校に対する支援について 2. 「買い物弱者」対策のその後は
17	盛谷 光明 議員	1. 世羅町の空き家対策について 2. 県指定天然記念物「世羅西長寿つばき」の現状について
18	岡田 武士 議員	1. 限界集落と高齢化について 2. 世羅高校教育環境支援事業について
19	福田 豪 議員	1. 治水の担い手は誰か
20	福田 義人 議員	1. 期待される有害鳥獣対策 2. 道の駅「世羅」を地域活性化に 3. 地域包括ケアをどのように構築するか
21	徳光 義昭 議員	1. スポーツ施設の課題解決を 2. ごみの公平な収集とごみ袋の値下げを
22	仙光 保喜 議員	1. 豪雨災害の対策対応は 2. 世羅町農業の将来像は
23	新原 浩 議員	1. 今年度からスタートの地域支援総合事業の進捗状況は 2. 町の在宅介護に最先端介護機器を

次期への挑戦—意気込みは

答引き続き町の発展に努力したい



仲行 洋 議員

仲行

4年間の実績をもとに、新たに策定された計画の実現に向け2期目へ挑戦されると思うが、意気込みは。

町長

就任後、道のりはきびしかったが町の活性化、政策提言の実行、課題解決及び新たな計画策定に努力した。これから①健康第一のまちづくり②産業の活性化③教育・文化のまちづくり④安全で安心して住めるまちづくりをはじめ多くの施策をお示しし、ご理解頂けるようにする。「いつまでも住み続けたい日本一のふるさと」を目標に努力する。

学校教育を取り巻く諸問題に わが町の対応は

答計画的、継続的に指導する

仲行

- ① 貧困率が話題になっているが、本町での「貧困家庭における子どもの学力保障」についての現状は。
- ② 運動会での組体操で事故が多発し、禁止した自治体もあると聞くが本町の対応は。
- ③ 危険薬物（覚醒剤）に対する教育は。
- ④ ネット・スマホの使用状況、トラブル・依存症等の防止対策は。

教育長

- ① 就学援助費の支給で児童生徒の学力の確保に努めている。貧困の連鎖を断ち切るため、福祉、子育て、経済など支援施策の相乗効果で就学・学力保障がなされることが不可欠である。
- ② ※スポーツ庁の通知を受け、ピラミッドやタワーについて一定の高さ（段数の制限基準）を申し合わせた。児童生徒の体力や技量を判断し、実施を考えることも含め安全な運動会の実施に取り組む。
- ③ 小学校6年生が「薬物乱用防止教室」、中学校は、保健の授業や、防犯教室で学んでいる。
- ④ ネット・スマホの使用状況は、小学生50%、中学生70%である。ネットの危険性、モラル、マナー、プライバシー問題などについて計画的、継続的に指導している。保護者に対しても研修や講演会を実施している。



薬物乱用防止教室

※スポーツ庁…文部科学省の外局。スポーツの振興などスポーツに関する総合的推進を任務とする。

イノシシ、鹿の処理 対策は進化したのか

答 進化していない

生田

- ① 町にイノシシ、鹿を活用したベットフー
ド工場を誘致してはどうか。
- ② 地方創生推進交付金を活用してはどうか。

町長

- ① 事業計画や経営計画などが明確になった
場合、企業の立地を支援する条例によ
り、「工場等設置奨励金」、「雇用奨励金」
をはじめ町としての支援を検討したい。
- ② 地方創生予算については、計画を出して
予算化されなかった事業もある。長期総
合計画などに基づき、事業を進めていく
ことが基本である。



生田 智康 議員

安全安心の町づくり

答 住民の安全と安心を第一に迅速な対応をしたい

生田

- ① 道路上の落石の対
応策は。
- ② ゲリラ豪雨対策は。
- ③ 熊対策は。

町長

- ① 毎月、業者による
パトロールを実
施、職員は通常業
務で目視調査。
- ② 広島地方気象台と
のホットラインを
活用し対応。自主
防災組織の設立を
促進し、組織の活
性化、防災活動を
推進する。
- ③ 5月21日に町内で
小熊の目撃情報があり、無線放送など
で注意喚起をし
た。広島県では、
人身被害が想定さ
れる場合、クマレ
ンジャーによるパ
トロールを実施し
ている。

本好き日本一の図書館 を目指そう（貸出率）

答 多くの町民に利用される工夫を

生田

- ① 休館日の変更は。例えば世羅図書館の休館
日を月曜日以外の曜日に。
- ② 開館時間の変更は。
- ③ 団体貸出のPR強化を。

教育長

- ① 学校の振替休業日となりやすい月曜日以外
での休館を望む利用者の声に応えたい。
- ② 現在の開館時間は午前10時から午後6時で
ある。今後利用状況のデータを参考にしな
がら、開館時間の変更も考えたい。
- ③ 現在、学校、保育所、福祉施設など121
団体が登録、利用されている。
今後はホームページ以外にどのようなPR
が良いか検討したい。



多くの町民に
利用される図書館

今年度の事務処理体制は

答 新体制で計画的に取り組む



田谷 幸奏 議員

町長

① 職員の年齢層、経験年数、業務内容、人材育成を考慮して配置。
若手職員の育成は、世羅町人材育成基本方針に基づき実施するほか、町独自の接遇マナー向上研修を実施。

② 繰越明許費のうち、主なものの執行は、自治センター整備事業1億5996万円、年金生活者等支援臨時福祉給付金9181万円などがあり、5月末現在、執行完了3件、着手済15件、その他2件となっている。

一方、本年度予算の主要事業53件は、着手済48件、未着手5件で、効果的な予算執行に努めている。



愛される町役場をめざして

田谷

新体制での事務処理の現状は。
① 職員の人事配置は。
② 予算執行状況は。

健康管理の支援策は

答 各種制度を提供

田谷

① 町が提供する健康維持事業の本年度の利用状況とその周知策は。
② 医療費などの経費負担軽減策の説明方法は。

町長

① 町が実施する各種健診事業は、「世羅町健診のしおり」を全戸配布し、ケーブルテレビでその申込方法を保健師が解説している。

現在の申込状況は、総合健診は昨年度並み、国保人間ドックはやや少ない反面、誕生月健診は多い。

② 医療費などの負担が軽減される制度は、国保・後期高齢者医療の「限度額適用・標準負担額減額認定証」があり、支払額が所得に応じて自己負担限度額になる。

この制度は、町広報で周知するほか、国保加入時、保険証更新時にも、パンフレットを配布するなどあらゆる機会を利用して周知している。

災害時の他市町との連携策は

答 協定を締結し連携体制を確立

町長

「広島県内広域消防相互応援協定」、「県内市町村の災害時の相互応援に関する協定」などを防災関係機関と締結し、食糧、医療、救助活動など災害応急対応策ができる体制を整えている。

田谷

地震など発生時、救助などで連携できる市町の有無及び具体的な内容は。



下原 嘉雄 議員

バイオマスタウン

構想施策の推移は

答 「山の日」など里山整備策で

取り組んでいる

下原 「木々の有効活用政策」であるバイオマスタウン構想は示されてから6年、社会情勢から政策的に合わない項目もあるが、林地残材ペレット化、竹材チップ化など政策次第では有効活用方法もあると思うが進捗状況を問う。

町長

町では木質バイオマス燃焼機器を補助対象とし、再生可能エネルギー利用を積極的に支援している。バイオマスタウン構想は、主に家畜排泄物の処理の際に得られるエネルギーの有効活用を図ることを主眼に策定したが、施設整備費の高騰、原油価格の安定化、参入予定事業者の撤退などで進展していない。今後は里山林整備や植林地の整備による木質チップの活用など、身近で効率的な事業を推進する。また、本年から制定された「山の日」を契機として、森林とのふれあいや、森の機能の重要性の認識向上を図り、バイオマスタウン構想に関連した事業実施に補助事業の創設など社会情勢を見ながら検討していく。



ひろしま「山の日」県民の集い

定住フォロー政策は

答 定住支援員を配置しきめ細かな対応を

下原

移住するまでフォローするメンパーはいるが、定住に向けての生活者として地域の行事参加、自治会への加入、冠婚葬祭等、継続したフォロー役が必要と思うが考えは。

町長

空き家バンク制度を創設し、地域に活力を呼び戻す取り組みをすすめてきた。現在窓口の一元化を図るため定住支援員を配置、きめ細かな対応に努めている。今年度より移住者ネットワーク組織の立ち上げも進めている。

農業後継者の育成と今後の農業は

答 新規就農者を育成、支援し、集落を支える



矢山 武 議員

町長

イノシシ・鹿の捕獲は525頭あまりで、前年より増えている。バッファゾーンの整備を柵・ワナと合わせて進める。新規就農者45名を育成支援し、後継者の定着に向け、集落で支えるよう取り組む。

矢山

TPPへの参加を進め、農業委員会委員は、町長の推薦となり、農家の代表から企業のための組織になる。イノシシ被害も増加しており、現状と対策は、人口減少が進み、厳しい中では限られている。どのように農村を守っていくのか。新規就農者支援は、一定規模以上の農家へ対応すべきである。

町道の計画的改良と維持の考えは

答 優先順位により計画的に進める

矢山

町道の改良が非常に遅れており、必要に応じて計画的に進めるべきである。地元での管理がむずかしく、町道周辺の木の伐採や、落葉対策、舗装修繕など、町道の安全を守るための維持と改良についての考えはどうか。

町長

平成28年度では、水路を含め、5路線の改良を計画している。道路法面の伐採幅を広くすると数百万円かかるが計画的に取り組んでいく。

国保の広域化と介護サービスの充実は

答 広域化の素案にそって進める

矢山

①平成30年度から国保の広域化で、さらに国保税が高くなる心配があるが、安心して医療が受けられるか。
②介護保険料も高くなり、サービス料の負担が増える。所得が伸びず、負担だけ上がる、65歳以上の方の障害者のサービスを紹介保険で対応するのは問題である。相談サービスの充実。

町長

①広域化の素案を本年度末に作成する予定。
本町の税は低い方であり、広域化後は高くなると見込まれる。
②地域包括ケアシステムで対応に努める。
保険料は納付相談がないと滞納処分をする場合がある。障害者のサービスは法的に決まっており、みづば会については契約が実行される対応をしたい。

世羅高等学校に対する 支援について

答 社会資源として支援し、
人材育成につなげたい



米重 典子 議員

町長

人口減少抑制施策に教育環境整備は必須である。また、貴重な社会資源として支援することにより、将来の世羅町を担う人材の育成につなげたい。

① 支援内容は、生徒確保・学習環境整備・部活動活性化の3分野の事業。

② オープンスクールでの学校紹介、世羅高校生による出前講座、部活の合同練習など、各中学校との共同による学習づくりに取り組まれている。

③ 地域を担う子どもを育て、生きがい、誇りを育むため、地域との協働で学校を守り、育てることにより、教育環境の充実を図りたい。

米重

平成28年度予算に、世羅高校教育環境支援事業補助金800万円が計上されている。定住策への効果も期待されるが。

① 補助金予算化の経緯と内容は。

② 中学校と世羅高校の連携は。

③ 教育力の向上と地域の活性化は。

買い物弱者対策のその後は

答 関係機関と連携し、取り組む

米重

平成25年6月の一般質問で、買い物弱者対策をとりあげた。3年が経過した現在の状況は。

① 世羅町の現状は。

② 新たに取られた対策があるのか。

③ デマンド交通の見直しは。

町長

① 65歳以上対象のアンケートでは、10%が「買い物できない」と回答、家族やヘルパーなどがサポートしている。また、小売業者、自治組織による移動販売や配達が行われている。

② 商業施設を利用し実施している、緩和した通所介護事業での買い物支援を行っていた。現在、3万1978人が利用、買い物弱者の交通手段として一定の役割を果たしているが、大きな荷物や載せられないなどシステムの見直しへのご意見をいただいている。関係機関と検討し、見直しを進める。



自治組織による店舗

町の空き家対策は

答 空き家バンクに登録し、
補助事業対策を実施



盛谷 光明 議員

町長

- ① 空き家バンクに登録できる一定の基準については、町内の空き家で玄関・台所・風呂・便所・居室を備えた住宅専用の建物であること。不動産取引が行えるよう表示登記や相続登記をしていること。屋根や床などに大規模な修繕を行う必要がないこと。
- ② 「お試し暮らし」については、1週間を単位とした有償で居住場所を提供するものである。利用者からは実際に生活したことで、町の様子を深く知ることができたとの良い評価を頂いた。今後は様々な媒体を活用し促進する。
- ③ 老朽住宅除去については、町税などの滞納がないことが条件で、補助額は除去費用の8割、補助限度額100万円としている。住居の不良度の判定基準を設けている。

盛谷

- ① 空き家バンクに登録できる住宅など、一定の基準はあるか。
- ② 移住体験事業として「お試し暮らし」に取り組んでいるが、利用者及び評価や課題は。
- ③ 老朽住宅除去に補助制度を設けているが、制度適用となる条件とこれまで実施してきた評価と課題は。

教育長

平成27年11月に県文化財担当職員と専門家2名につばきの現状を見て頂き「つばきは枯死に向かっているが、しばらくの間経過観察を続ける」との方向性を示された。

根からヒコバエが成長してきており、このヒコバエを順調に生育させることで遺伝子を後世につないでいきたいと考えている。



県指定天然記念物 「つばき」

**県指定天然記念物
「世羅西長寿つばき」の現状は**
答 経過観察を続ける

盛谷

国内屈指の長寿つばきが枯れたとのことだが、町の対策はどうか、このつばきを後世に残す考えはあるか。

限界集落と高齢化の課題を問う

答 地域、関係機関、町が協力することが重要



岡田 武士 議員

町長

- ① 第6期介護保険事業計画によると、人口は徐々に減少し高齢者は横ばいとなる見込み、平成26年に38・1%であった高齢化率は平成37年には41%となる見込み。介護予防を含む、地域包括ケアシステムの構築に取り組む。
- ② 限界集落とは、組、隣保、隣組などと呼ばれる小組織の活動が細くなり維持が難しくなっている現状。
- 地域の活性化を図るための人材の確保と育成が喫緊の課題、地域づくり事業を推進する。
- ③ 本町では全町を1圏域として住み慣れた地域で生活を送れるようサービス需要に対応する。

岡田

- ① 町の高齢者を取り巻く環境は。
- ② 町の課題と運営方針は。
- ③ 地域包括ケアの取り組みは。

町長

- ① バス・バイクを利用する通学者への必要経費の一部助成と、近隣の中学生を対象とした学校紹介などに係る事業への支援で、バス通学予定者40人程度と、バイク通学予定者40人（1年生は免許取得後）を対象に出席日数などを勘案し必要経費の一部が助成される。
- ② 平成27年度町内中学校卒業生は144名で、全てが進学し、内66名が世羅高校へ進学している。支援により一人でも多くの生徒が世羅高校へ進学できる環境整備に寄与したい。

岡田

- ① 通学などに関する支援事業の内容は。
- ② 町内中学校卒業生の進学状況は。

世羅高校教育環境支援事業は

答 生徒数確保に関する事業



世羅高校教育環境支援

治水の担い手は誰か

答 町として進めるべき



福田 豪 議員

町長

管理者が責任を負うと認識する。事業費を誰が負担するかではなく、実際の管理者の責任をどう負うかだと思う。治水に限らず、環境、防災など様々な観点から、町として進めるべきと思っている。治水についての観点が欠けていたということは反省する。地域の意見なども集約しながら、早い時期に具体的に詰めていきたい。

福田豪

町河川は「1メートル以上のもので、それに満たないものは農業用施設の水路」との見解が示されている。一方で地域あるいは農家の側では、「水路は必要に応じて流量は調整・管理できる」との前提で利用し、地域共有の財産として、維持管理している。しかし地域の幹線水路の多くは、地形的には最低部を流れており、多くは治水機能を担っている。前述の前提にはなじみきらない。こうした水路の管理主体は誰が担うのか。



治水は誰が管理者か

期待される有害鳥獣対策は

【答】処理場建設は早急な課題



福田 義人 議員

町長 有害鳥獣駆除に対応する支援は、集落ぐるみで行う侵入防止柵や電気柵、箱ワナ捕獲器の購入補助を実施している。公用車の利用は難しく、費用増で対応したい。処理場建設は早急な課題と考えている。

福田義人 抜本的な鳥獣被害の防止には個体数の削減しかなく、有害鳥獣駆除班の活動や、イノシシパトロール隊の機能向上が必要。そのためには公用車の提供や解体処理場の建設が必要だ。

道の駅「世羅」を地域活性化に

【答】更なる充実に向け取り組む

町長 道の駅「世羅」は、町の特性を踏まえ町内を周遊する情報発信に重点を置いた設計で、農産物などの販売のアンテナショップである。地域活性化では、地元農業法人と連携した収穫イベント、コンサートやワークショップなど交流イベントを実施し充実に図る。

福田義人 道の駅「世羅」にシンボルモニュメントが完成した。町をアピールする絶好の場所であり、芸術の町づくりに活用されることを期待する。さらに雇用確保など地域特性を生かした拠点として活用すべきだ。

地域包括ケア構築をどのように

【答】包括ケアの充実に向け取り組む

町長 世羅中央病院を核として中山間地域の医療を守るには、慢性的な医師不足の解消や受診科の充実が望まれる。デマンド交通を補完する交通システムとして乗り合いタクシーがあるが経費面で難しい。救急患者輸送はドクターヘリが有用である。有時の際を想定し、適した場所での運用を進めたい。

福田義人 住み慣れた地域で暮らすには、住民の要望に添える地域医療の構築が必要だ。特に医療機関への通院手段を確保する乗り合いタクシーなどの新たな交通システムの構築や、救急体制の整備として、ドクターヘリ専用のヘリポートを病院の近くへ建設が必要と考えるが。

スポーツ施設の課題解決を

答 関係者と協議



徳光 義昭 議員

町長

① スポーツ広場があれば、災害時の基地にもなる。過疎計画の最後に載せているが、私の一存で進めることはできない。今後、町民、関係者と協議したい。

② 県の担当と指定管理者であるアグリパーク、町担当課で現地確認し、県に対し案を提出している。

教育長

② 現状のロードレース大会は、交通事情で継続は難しいが現在の大会だけでも実施したい。県民公園芝広場は駐車場も広く、「駅伝の里」を標榜する世羅町として有効活用を検討したい。

③ スポーツ少年団の利用実績を計算し、それを施設使用料援助費として、平成27年度から支援している。

徳光

町長の中山間8策の中で、グラウンドの建設は一丁目一番地です。実現可能な具体策を問う。

① 多目的グラウンドの早期整備は。

② クロスカントリー競技場として「県民公園芝生広場」の県との協議状況は。

③ 香遊ランドのグラウンド使用料の考えは。町内小、中学生がスポーツ少年団活動に使用する時は、免除すべきと思うが。

ごみの公平な収集と ごみ袋の値下げを

答 全域のゴミステーション化と ごみ袋の料金設定を検討する

徳光

① ごみの収集は改善されたが、一部に戸別収集がある。早期に公平な収集の取り組みが必要である。

② 町のごみ袋は以前より「高い」と、多くの声がある実態を調査し、早期に値下げの取り組みを。

③ ごみの減量と古紙の資源化の取り組みは。

町長

① 現在、戸別収集とステーション方式が混在している。町内全域のステーション化は、収集の平準化と効率化のため早期に解決したい。

② 今後、他市町の実態を調査し、ごみの減量化、再資源化に取り組み、町民から適正だと判断されるよう料金設定を検討したい。

③ 3R「無駄に買わない、もう一度使う、再利用する」を実践している。

今年度から住民自治組織などによる古紙回収に奨励金を交付し、ごみのリサイクルの推進に取り組みたい。



ごみ袋値下げは

豪雨災害の対策対応は

答 優先度を持って対応



仙光 保喜 議員

町長

ゲリラ豪雨による災害が県内を問わず起こっているが原因は様々である。河川パトロール調査や住民情報などにより危険箇所を把握し、対策の必要な箇所は工事を行っている。町内には、土石流危険渓流数275箇所、急傾斜地崩壊危険箇所761箇所、地すべり危険箇所1箇所がある。行政の情報と地域の危険箇所などの情報を総合的に把握することが未然防止や被害の軽減につながると考える。災害被害情報の公表については、個人情報に関わるものは、個々の状況や内容により公表するか判断している。



豪雨災害の対応は

仙光

平成26年8月に世羅西地区での豪雨災害、災害復旧工事は早い段階で対応された。しかし、被害をもたらした原因箇所の調査や堆積土除去などはできていない。
消防団員が土嚢積みをして、被害は農地だけで済んだ事例もある。小河川の氾濫などの対策、原因箇所への対応はされたか。
個人では、取り組みができない河川の堆積土の除去などは、どのように対応しているか。

世羅町農業の将来像は

答 現在の農業を
持続可能なものに

仙光

町では、法人化や集落営農を進めている。農地の集積の結果、農業から離れる農家が出ている。農地中間管理機構（農地集積バンク）の新しい制度も影響している。集落ぐるみで維持をしていたことから人が減り、維持ができなくなっていく状況である。担い手確保の難しい中、個人農家の維持支援策も必要ではないか。

町長

町は、地域リーダーや担い手、後継者の育成が必要と考えている。また集落を守る支援として、中山間地域等直接支払制度や多面的機能支払制度がある。農業者自らが、地域農業の将来を考え、目標を定めていく取り組みが大切と考えており、県やJAなどと連携を強化して取り組みを進めていく考えである。

地域支援総合事業の進捗状況は

答 地域で安心して住み続けられる
まちづくりの推進



新原 浩 議員

新原

平成28年度から介護予防給付のうち訪問・通所介護を地域支援事業へ移行した、進捗状況は。

- ① サービス提供者や団体などの取り組みは。
- ② 通所型モデルとして、3自治センターが3カ月間試行した成果と課題は。
- ③ 新たな事業を実施される提供団体などの住民への周知は。
- ④ 今後、地域支援総合事業の検証は。

町長

- ① 通所サービス事業の一つである住民主体による居場所づくりにおいては、3自治センターでの試行的実施。成果として「いきいき百歳体操」により体の動きが良くなった」「公用車の送迎により参加者が増えた」などの意見がある。
- ② 訪問型サービスについては、提供者の育成を検討して行く。
- ③ 実施期間に「体操に限定されると他の体を動かすことがプログラムに入れない」「送迎中の事故が不安」などの意見があり、これらを踏まえて協議、改善を行う。
- ④ サロン参加者や訪問・通所介護事業所、居宅介護支援事業所に情報提供や説明を実施して行く。
- ⑤ 事業実施中の意見聴取や事後の体力測定などの実施を予定。今後高齢者の介護が必要となっても地域支援を受けられ、安心して住み続けられるまちづくりを推進する。

町の在宅介護に最先端介護機器を

答 家族の介護負担を軽減

新原

介護を必要とする人も年々増加し、町としても在宅介護の将来を見据えた取り組みをして行く事が必要ではないか。

- ① 現行制度の介護保険給付の貸与対象品目は。
- ② 在宅介護者の福祉用具の利用状況は。
- ③ 福祉用具などの利用についての課題は。
- ④ 町としての新たな介護機器事業への支援は。

町長

- ① 福祉用具貸与対象は、介護保険で利用できる13品目で要介護度に応じて異なる。
- ② 介護給付から見ると利用人数とも増加傾向。
- ③ 町としては、適正に利用して頂いており支援する機能を果たしている。
- ④ 利用者の利便性を向上させる機器が開発されており、このような状況を踏まえ国、県からの情報も考慮し、介護に関わる家族の負担軽減の支援ができるよう検討する。



介護に
先端機器を

子育てママの応援団に

世羅町で楽しい子育てを考える会 徳光 紗代さん

まさにタイトル通りの「元気な人」といった第一印象。結婚を機に世羅町に住んで12年、11歳、10歳、6歳の1男2女のママ。

最初は「お店がない、やっぱり田舎・・・」という印象だった。でも、近所の人はみなやさしくて、自分から積極的に近所づきあいを始めたという。最近まで夫の両親と同居していたが、子どもが大きくなり近くに家を建てた。「でも、子どもを預かってもらったり、おじいちゃん、おばあちゃんがコーヒを飲みに来たり、ほとんど毎日顔を合わせている。」とのこと。

十年前、当時子育てサークルの代表として「楽しい子育てを考える会」のメンバーになった。子どもと一緒に参加でき、自分が楽しめることがよかった。考える会が企画した講座の受講がきっかけで、ベビーマッサーの講師資格を取り、現在数か所で教室を開催しているが、そこで接する若いママたちを見ていて感じるのは、彼女たち自身が癒しを求めているということ。「だから子どもだけでなく、ママにも効果があると思う。ときには相談相手にもなりますよ。」という。

そのほかにもいろいろな場面で、子育て世代の代表として活躍する徳光さんだが、それには、ご主人を始めご両親の理解と協力なしにはあり得ないと話す。

これからの目標は、との問いに「子育てを支援する人を増やしたい、そしてお母さんたちにも自分の持っている力を発揮してもらいたい、そのための場作りができれば・・・」と意欲をみせた。そして最後に、「結婚を機に世羅にきた人もある意味移住者だと思う、町の定住対策にも関心がある。そして、若いママたちには、まずは自分から一歩踏み出してほしいです。」と締めくくった。

(米重 典子)



表紙紹介



世羅町出身の彫刻家杭谷一東氏の代表作「天地花」が道の駅世羅に完成した。落成記念式典では町民の皆さんによる神楽や太鼓などで、高さ7mの町の新しい観光シンボルの誕生を祝った。

編集後記

川辺にホタルが乱舞するのどかな日々の中に、梅雨も本格的な季節になりました。近年のような豪雨による災害が起きない事を祈るばかりです。

先般各会場で議会報告会・意見交換会を開催しました。今年度は「空き家対策について」をテーマに語って頂きました。世羅町の空き家対策には移住者住宅支援事業、移住体験事業、老朽住宅除去補助等の支援があります。このような制度も有効に使って頂き、より多くの人に素晴らしい世羅の町に定住して頂けることを期待しています。

(盛谷 光明)

議会を傍聴してみませんか
次回の定例会は9月です

日程は無線放送でお知らせします。
またケーブルテレビでも本会議の中継をしています。

議会広報広聴
調査特別委員会

委員長／下原 嘉雄
副委員長／米重 典子
委員／田谷 幸奏・盛谷 光明
岡田 武士・新原 浩

議員の寄附は罰則をもって禁止されています。議員に寄附を求めることも禁止されています。年賀状など（答礼のための自筆によるものを除く）を出すことも禁止されています。